ヤマハ、Domoを活用してグローバル物流のDXを加速

- 年間200時間の工数削減と輸送リスクの早期発見を実現 -

ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念として共有し、音・音楽を通じて「世界中の人々のこころ豊かなくらし」に貢献することを目指しています。

https://www.yamaha.com/ja/

集計作業の年間工数

200時間削減↓

輸送リスク早期発見

物流関連データを集約
意思決定のスピードと精度を
飛躍的に向上

1. ビジネス背景と課題

ヤマハは1887年に創業し、130年以上にわたり世界最大級の総合楽器メーカーとして、楽器や音響機器の製造から販売・サービスまでグローバルに事業を展開しています。同社の物流システム部は国内はもとより、海外40以上の工場・倉庫・販売拠点をつなぎ、グループ全体が効率的・効果的に機能する「物流コントロールタワー」の役割を担っています。

特に海外においては地政学的リスクや関税変動など、サプライチェーンの混乱要素が増える中、安定した物流運営を維持することがますます難しくなっています。このような不確実な状況に対応するため、世界各地の物流データを一元管理・分析して、誰もが正確な情報を把握でき、的確な意思決定ができる「物流情報基盤」の構築が求められていました。

2. なぜDomo？

ヤマハでは情報システム部がDomoを最初に採用し、意思決定プロセスの変革に活用していました。物流システム部にはITの専門知識を持つエンジニア職の社員はいませんでしたが、Domoの実務担当者でも使いやすいユーザーインターフェースや、ノーコードでデータの収集・分析・可視化・共有ができる点、さらに充実した学習コンテンツを評価し、同部門でも2023年6月にDomoを導入しました。



“ヤマハでは情報システム部門をはじめ、マーケティング、営業、生産部門でもDomoを導入しています。今後、物流システム部が活用するデータを他部門と共有していき、調達・生産から販売を含むグローバルサプライチェーンの最適化を加速させていきます。”

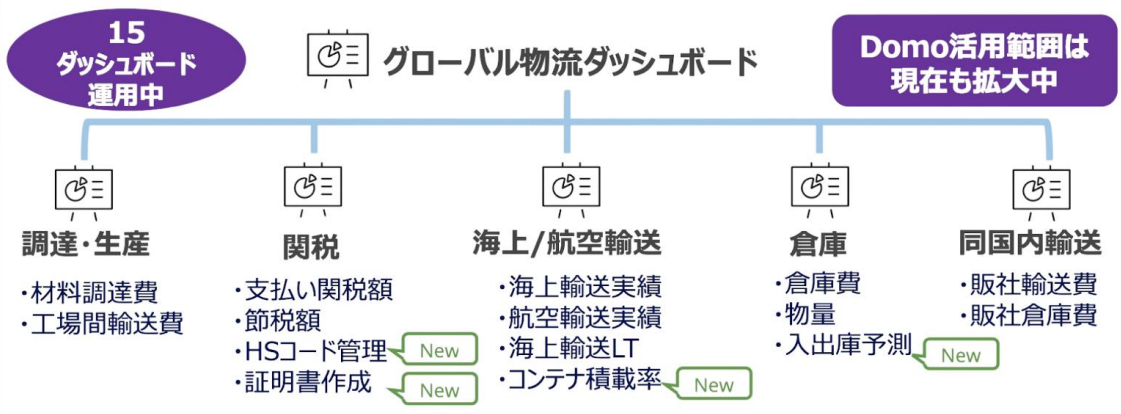


中川 雅仁 氏
ヤマハ株式会社
物流システム部 部長

3. Domo活用の成果

年間200時間の工数削減と輸送リスクの早期発見を実現

現在では、Domoのダッシュボード上に「物流情報基盤」を構築し、関税額や輸送コスト、在庫量、倉庫費などの物流関連データを集約。意思決定のスピードと精度を飛躍的に向上させています。さらに、担当者ごとに異なっていたデータの集計方法や定義をDomoを使うことで統一化・自動化することで、データ品質と信頼性を大幅に向上させるとともに、集計作業の年間工数を**200時間**削減しました。



1）輸送リスクの早期発見と迅速な対応へ

海上輸送データをDomoで一元管理することで、紛争・天候・関税変動などのリスクに迅速に対応できるようになりました。最近では、米国の関税引き上げ時に、正確な情報を関連部門にタイムリーに提供したことで、出荷タイミングの最適化を迅速に実施し、影響を最小化しました。

2）物流事業者の定量評価の自動化による契約の透明化

年に一度手作業で集計していた各輸送事業者の年間実績をDomoで自動化・可視化することで、業務負担を大幅に軽減しました。これによりリードタイムのばらつきや、契約リードタイムからの遅延を定量的に把握し、公平で効率的なパートナー評価を実現しています。

3）倉庫物量と入出庫予測の最適化

各拠点の在庫量をDomoで可視化し、急激な在庫変動やスペース不足をモニタリング。入出庫予定データを倉庫事業者と共有することで、数か月先のスペース状況の把握が可能になり、急激な需要変動にも柔軟に対応できる体制を構築しました。

4）海上輸送効率の改善へ

輸送効率を分析しています。キャリア、積地港/揚地港、運賃、輸送リードタイム等の海上輸送情報をダッシュボード上に集約するとともに、コンテナの最大積載量に対して実際の運搬量をDomoで可視化し、出荷効率の実態を網羅的かつ直感的に把握できるようにしました。このことにより、積載率の改善やコスト削減策を実態に基づいて検討できるようになりました。

